

## 生物多様性保全の意義について

動物応用科学科4年 小林謙斗

生物多様性という言葉は、単純に生物種の多さを表すものではなく、遺伝子、種、生態系など様々な生物学的単位やそこに起きているプロセスの多様性を表す言葉である。この生物多様性が、人間が生活する上で必要な生態系サービスの重要な機能を担っているという点において、生物多様性を保全する意義があると私は考えている。生態系サービスとは生態系の働きのなかで人間に利益をもたらすものを総称したものである。

この生態系サービスによる利益を得るためには生物多様性が高いことが求められる。例えば、食糧、水、燃料といった物質的サービスの中には人間生活にとって重要な資源が含まれ、生物多様性が高いことが経済的に利益をもたらすものも多い。実際に、ある特定の地域で稀にしか見つからないために高い経済評価を持つ資源が地域の住民の重要な収入源になっている場合がある。また、医薬品など、現時点では発見されていない有用な資源が生態系に含まれている可能性があるため、生物が多様であることに価値があるという考え方もある。

だが、生物多様性が特に必要ないようにも思われる生態系サービスも存在する。例えば、燃料にする樹木であれば多様な種は必要ないとも考えもあるし、水の涵養を求められている森林においても、生物多様性が低くても水を涵養することは可能だと考えられる。

しかし、多面的な視点から見れば、やはり生物多様性が高いことが必要だといえよう。上記の例でいえば、樹木の多様性が低いと、災害が発生した場合や、外来種、病原菌が侵入してきたときに、樹木全体に壊滅的な被害をうけやすくなり、生態系サービスを維持することが困難になる。このように、一見、生物多様性が特に必要ないように考えられる生態系サービスにおいても、高い生物多様性が求められているのである。

ここまで述べてきたように、生物多様性が生態系サービスにおいて重要な機能を担っており、この点において生物多様性を保全する意義があると私は考える。